## 潜在危険性

### 火災・爆発

- 熱、衝撃、摩擦及び不純物の混入により爆発するおそれがある。
- 可燃物（木、紙、油、布等）を発火させるおそれがある。
- 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
- フレアー燃焼効果によって速く燃えるおそれがある。
- 加熱すると容器が爆発するおそれがある。
- 漏洩すると火災・爆発の危険がある。

### 健康

- 火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 摂取や接触（皮膚、眼）により、重傷や炎症を起すおそれがある。
- 消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

## 公共の安全

- **まず、送り状記載の応急措置照会先に電話する。送り状がない場合や応答がない場合、関連機関のデータベース等に照会する。**
- 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- 関係者以外は近づけない。
- 風上に留まる。
- 低地から離れる。

### 保護具

- 空気呼吸器（SCBA）を着用する。
- 製造者により特に推奨された化学用保護衣を着用する（耐熱性がないおそれがある）。
- 防火服は限られた防護をするに過ぎない。

### 避難

**大量漏洩時**

- 風下に適切な避難距離をとる。

**火災時**

- タンク、貨車あるいはタンク車が火災に巻き込まれた場合は、すべての方向に、適切な隔離距離と適切な初期避難距離をとる。





## 緊急時の措置

### 火災時

**小火災**

- 散水又は水噴霧が望ましい。水がない場合は粉末消火剤、二酸化炭素、通常の泡消火剤を用いる。

**大火災**

- 火災の場所から適度の距離で大量の水を散水する。
- 散水又は水噴霧を用いる。棒状注水で消火しない。
- 危険でなければ、容器を火災区域から移動する。
- 積荷が熱にさらされているときは、その積荷又は車輌を移動してはいけない。
- 可能な限り遠くから、無人ホースやモニター付きノズルを用いて消火する。
- 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。
- 大火災の場合は無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する；これが不可能な場合にはその場所から避難し、燃焼させておく。

### 漏洩時

- すべての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
- 可燃物（木、紙、油等）は漏洩物から隔離する。
- 適切な保護衣を着用していないときは破損した容器や漏洩物に触れてはいけない。
- 散水して湿った状態を保つ。
- 危険でなければ漏れを止める。

**少量のもれ**

- 湿った不活性な不燃材料で処理し、清浄な帯電防止器具を用いてプラスチック容器に入れて、ゆるく覆いをして後で廃棄する。

**大量のもれ**

- 水で湿らせてせき止め、後で廃棄する。
- 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- **漏洩物を取り除いたり廃棄するのは専門家の指示による。**

### 応急手当

- 被災者を新鮮な空気の場所に移す。
- 救急車を呼ぶ。
- 呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。
- 呼吸困難の時は酸素吸入を行う。
- 汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。
- 皮膚からすぐに付着物を取り除く。
- 漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低15［20］分間洗浄する。
- 被災者を温め、安静にする。
- 医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。